

きずな



北九州市立折尾西小学校

学校だより 5月号

平成30年5月7日(月)

校長 成重純一

校区に感じる挨拶の文化

登校時間帯に校区に立つと、スクールヘルパーや安全パトロール隊の方々がたくさん立っいらっしゃいます。2本の国道に挟まれた本校にとって最も恐ろしいのは自動車による交通事故ですが、こうした方々のおかげで事故なく5月を迎えています。皆さんは、本校の子どもたちの安全を確保し、見守ることを目的に立たれていますが、安全だけでなく、成果を感じるのが挨拶です。挨拶の「挨」は「心を開く」、「拶」には、「相手に近づく」という意味があります。心を開き、相手と心の距離を縮めようとする行為が挨拶です。本校の子どもたちはもちろんですが、驚くのは、中学生も高校生も大人に挨拶をしたり返したりすることです。きっと学校の中だけでなく、ボランティアで立たれている方と繰り返し挨拶をする中で、挨拶が特別なものではなく、身近な当然の習慣になっているからでしょう。いつまでも大切に育て守りたい校区の文化です。



行事に関する駐車はできません

どの学校もそうですが、本校でも、学習参観や運動会、懇談会等の行事で保護者が自動車で来校されることは認めていません。特に、運動会では、小さなお子さんが敷地内のどこを歩いても不思議ではなく、校門から少し入った箇所でも事故を起こすおそれが十分あります。どうぞご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

なお、放課後の施設使用のために学校に来られる場合でも、進路スペースも駐車スペースも狭い学校ですので、徐行運転を心がけ、交通事故防止にご協力ください。



学力観の変化とテストの形式について

学習が進むと、一区切りついたところで、どの学年も評価のためのテストを行います。昔は、学力についての考えも様々で、「学力とは、読み・書き・計算だ。」という方や「学力は、結局どれだけの正解や解き方を記憶しているかだろう。」という方もいました。しかし、平成19(2007)年、学校教育法が改正され、初めて法律で学力の定義が規定されました。学力とは、「基礎的・基本的な知識・技能」「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の三つとなっています。(学校教育法第30条)

全国学力・学習状況調査も、この規定に沿って問題が作られています。北九州市では、特に「思考力・判断力・表現力等」の育成と評価を重視しており、本校も4年生から6年生の一部の教科については、教育委員会作成のテストを使うことにしています。(学年によって他のテストとの併用の度合いは異なります。)中には、自分の考えを与えられた条件に沿って書いて答える問題も多くあり、以前の成績と比較して戸惑われるかもしれませんが、形式が異なることを踏まえてお子さんの成長に役立ててください。